

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172901233		
法人名	有限会社つながり		
事業所名	グループホームつながり		
所在地	〒070-0825 北海道旭川市北門町9丁目2644-36 (電話) 0166-55-9120		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年10月22日	評価確定日	平成20年12月26日

## 【情報提供票より】 (平成20年10月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 4月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	11 人 常勤 4人, 非常勤 7人, 常勤換算 5.53人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1~2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	26,000、30,000 円	その他の経費(月額)	15,000~22,500 円
敷 金	有 ( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

### (4) 利用者の概要 (10月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	2 名	要介護2	0 名
要介護3	3 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	2 名
年齢	平均 88 歳	最低 75 歳	最高 96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	道北労務者医療協会旭川北医院, 一条通病院, 丸山歯科医院, 他
---------	----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、住み慣れた地域の中で、高齢者が支えあって生活していくことが必要であるという思いから、平成9年に高齢者住宅として開設し、平成15年にグループホームへと移行した。大学の美しいキャンパスが目前にある閑静な住宅地の一角という恵まれた環境に立地し、近隣との関係も良好である。「最後までその人らしく、生きていてよかったと思える人生を目指す」という運営理念を、日々全職員によって実践しており、利用者は心身ともに安定し、明るく笑顔にあふれている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価での課題であった災害対策については、消防署の協力を得て避難訓練、消火訓練、心肺蘇生法の訓練等を行っており、災害時の近隣からの支援体制も整備されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
重点項目 ②	全職員が集まり、項目すべてについて評価している。自己評価は、ケアサービスへの新たな気づきの機会になるととらえており、結果を活用してより良い介護に活かしている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
重点項目 ③	運営推進会議のメンバーを当地域中心に選任して、2ヶ月に1回開催している。事業所の運営状況や行事等の報告と意見交換により、一層地域からの理解が深まり、協力体制も強化している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
重点項目 ④	家族の来訪が多く、来訪時には利用者の日常の様子、健康状態などを報告するとともに、家族の思いや希望を聴き取るようにしている。2ヶ月に1度の家族へのたよりに個人欄を設け、利用者一人ひとりの近況を知らせている。
	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	利用者の地域住民としての生活を大切にしており、事業所を地域の会合の場として提供したり、事業所で行う行事に独居高齢者を招くなど、地域との交流を積極的に行っている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で、地域住民としての利用者の生活を大切にしながら、その人らしい生活を継続することへの支援をうたった理念を掲げ、実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	年度初めに話し合い、職員は自分の言葉で理念を語れるようにし、日々の介護に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設長をはじめ職員は、地域との関係を大切にしている。事業所が地域からの支援を受けるとともに、事業所を開放したりボランティアによる事業所でのコンサートに地域住民を招くなど、双方向の良い関係ができています。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価については、職員会議で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。今回の自己評価も、職員全員で全項目について検討している。介護を振り返る良い機会になると考えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、メンバーを当地域中心に選任し、2ヶ月に1度開催している。事業所の運営状況や行事等の報告と意見交換により、一層地域からの理解が深まり、協力体制も強化している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会や会議に参加したり、必要時に相談するなど、連携をとっている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪が多く、職員はその都度声をかけ、利用者の暮らしぶりや健康状態を報告している。また、2ヶ月に1回たよりを発行し、その中に個人欄を設けて、利用者一人ひとりの近況を記入している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の来訪時に会話を多く交わすようにして、家族の思いや意見を聞き取っている。要望等があったときは、会議で話し合い、改善につなげている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はあまり無いが、離職時には利用者に事情をよく説明している。新しく職員を採用するときは、着任前に事業所に来訪してもらい、利用者とも慣れるよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の研修を大切にしており、職員は毎月の職員会議での内部研修と、できる限りの外部研修にも参加するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会等に参加しており、他事業所の見学をするなどして、サービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	はじめに家族が事業所を見学し、次いで家族と本人が事業所に遊びに来て、一緒にお茶を飲むなどして馴染んでもらい、本人が納得しからの利用開始となるようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者の生活歴や得意なこと、好きなことを把握し、活躍の場を作っている。その際、職員が利用者から教えてもらうことも多々あり、ありがとうと利用者へ感謝を伝えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の日常の言動から、思いや意向の把握に努めている。また、家族の意見を聴くとともに、アンケートを取って希望を把握し、できるだけかなえるようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の職員会議で全員が意見を出し合い、ケアマネジャーがまとめて計画を作成し、家族の意見を聴きながらつくりあげている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の職員会議で利用者全員の介護計画を点検し、情報や意見を出し合いながら、必要に応じて計画の見直しをしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院介助のほか、展示会の鑑賞や回転寿司に出かけるなど、一人ひとりの望みをかなえるように柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望するかかりつけ医に受診しており、通常は職員が通院介助を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の希望については、利用開始時に話し合っている。その後は、必要時にその都度話し合っ、本人や家族の希望に沿うようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への声かけや誘導は、目立たぬように行うなど配慮している。記録類は事務室に保管しており、職員以外の目に触れないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった日課は無く、一人ひとりのペースで、体調や希望に沿いながら、思い思いに過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後片付けまで、利用者の好みや持っている力に合わせて、職員と一緒にやっている。職員は、利用者と同じテーブルで同じものを食べ、会話を進めながら、楽しい雰囲気づくりをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に合わせることができ、現在は、週3回、午後からというパターンが定着しており、一人あるいは気の合う人と二人で入浴している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者一人ひとりの生活歴や得意なこと、趣味などを把握して、調理や掃除と一緒にしたり、音楽療法、民謡療法を行うなど、楽しい暮らしになるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日散歩に出かけ、日光浴、外気浴をしている。畑仕事や買い物など、一人ひとりの希望に応じた外出の支援をしている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関に施錠はしていない。見守りを十分にすることに努め、出かけた利用には付き添うなど工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練、消火訓練、心肺蘇生法訓練を行っている。災害時の緊急連絡網や、近隣からの支援体制も整備している。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重測定・食事摂取量・水分摂取量のチェックをしている。食事時のほか、10時、3時に水分摂取を促している。食事のバランスについては、栄養士でもある施設長が献立を点検している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は広く、畳のスペースがあり、ソファやベンチを適度に配置している。絵画や花を飾り、落ち着いた雰囲気を作っている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の面積が広く、使い慣れた家具や仏壇等を持ち込んでおり、また、家族との写真や手作りのカレンダーを飾るなど、好みを活かした居心地の良い部屋となっている。	○	安全確保のために、利用者が持ち込んだ椅子・テーブル・ベッドの安定性や高さの点検をするとともに、家具の配置の工夫等が望まれる。

※  は、重点項目。